

がん教育実施報告書

学校名	福島県田村市立都路小学校・中学校	
実施対象者 (学年・保護者など)	都路小学校6年生・都路中学校全校生	
教育課程の位置づけ	体育・保健体育 道徳 学級活動・HR活動 講演会・行事 その他(小・中合同の学校保健委員会の中での取り組み)	
実施日時	令和4年7月14日(木) 14:30~:15:30	
打合せについて	【1回目】方法:対面での打合せ 内容:ねらい、方法の確認 【2回目】方法:運営面での打合せ 内容:話をいただくポイント確認	
外部講師 職・氏名	臨床哲学・臨床心理学サポートシステム代表 公認心理師・臨床心理士 氏名 鈴木 敏城 氏	
実施内容	<p>【テーマ】悲しみがあっても 幸せになれる</p> <p>本講演会は、6月8日(水)に都路中学校で行われた生命の尊重を主題とした道徳の授業を受けて、更に生命の大切さや、よりよく生きる喜びの学びを深めるために、学校保健委員会のⅡ部の活動として設定された。主催は、都路地区幼・小・中連携推進委員会とし、都路小学校6年生と都路中学校全校生の他、都路地区の地域の方にも案内を出した。</p>	 
	<p>小・中の学校保健委員会の各養護教諭が講師と2回の打合せを行い、特にがん予防のための基本的な生活習慣の指導と共に、がん患者の願いについて、鈴木講師が自身の体験を元に語ったことを児童生徒に考えさせる機会を作った。鈴木講師が「幸せになってください」と周りに言われた時の違和感から、「同情」と「共感」は違うというメッセージは、すぐに答えを出せるものではなく、時間をかけて考える問いとして、かつ、先の道徳授業の関連のある意義深い問いでもあった。また、鈴木講師は、その後、がん患者との面接の経験の概要を説明し、「絶望」「怒り」「悲しみ」から「希望」へと紡ぎ直して生きるのを支えたいということ語った。講演会後のグループでの振り返りや感想から、各児童生徒が我が事として、真剣に考える様子が伝わってきた。聴講した保護者や地域の方も同様の意見を持たれ、日常では、気軽には話題にならないが、大切なテーマである命について考えを深め合う大切な機会となった。</p>	

成果等

* 普段、命の尊さや生きる喜びは日常の中で話題になることは少なく、真剣に考えれば、重いテーマである。そのテーマを深い学びにしていくために、今回中学校での道徳の授業と関連を図り、外部講師を活用したことは、大変有意義であった。特に、外部講師が自己の病との闘いを語り、周囲から、どのような関わりをしてほしかったかということ率直に語ったことは、児童生徒の共感を生んだ。また、このテーマを今後も思い出し、「悲しみが」のところを、「困難なことがあっても幸せになれる」、「辛いことがあっても幸せになれる」等、置き換えて考えられることは、各児童生徒の生き方の指針にもなり得るものである。



* 課題としては、今後は小学校中学年や低学年にどこまでがん教育の内容を伝えていくのかということも吟味していく必要がある。

〈児童・生徒感想〉 ○小学生 ◎中学生

- 自分だったら余命を言われたら引きこもってしまうかもしれません。僕も鈴木さんのように、他の人にできることを探して生きていきたいです。
- がんにかかると大変だけど、不幸ではないことがわかった。これからは鈴木先生のお話・言葉を思いかえしながら生きていきます。
- この先辛いことがあっても、「悲しみがあっても幸せになれる」を思い出して、これからも生きていこうと思います。
- ◎ 「孤独」が一番人を弱くするのですね。そして「生きがい」が一番励みになるのですね。「同情」と「共感」をはき違えないようにしたい。
- ◎ 私も辛いことがあったら確かに「幸せになって」、「普通にしてあげられなくてごめんね」など言われるのではなく、「ありがとう」、「頑張ったね」など、言われたいと思いました。
- ◎ 私は講話中、同情から共感によって相手を支えることができると言われた時に、去年、顧問の先生が共感しながら聞いてくれたことを思い出しました。
- ◎ 日々の生活などで悲しいこと、辛いことがあっても少しの希望に向かって頑張るのが良いことにつながると思いました。また、誰かに話してみるだけで、気持ちが楽になったり、前向きになれたりすることも改めて思いました。